

未熟児にぴったりの靴を

小さな赤ちゃんに、ぴったりの靴を履かせたい。未熟児を育てた経験を基に、高知市の片岡百合さん(38)が従来より小さいベビー靴を開発、販売している。「チヨーチ・チヨーチ」のブランド名で、素材やデザインにもこだわった、手のひらより小さなファーストシューズ。「歩き始めた喜びを味わってすてきな思い出を作れるよう、お母さんたちを応援したい」という思いをぎゅっと詰め込んでいる。
(松田さやか)

高知市の 育児経験基に開発 片岡さんの 育児経験基に開発

片岡さんは中1の長男と小6の長女の母親。長女は2000年2月、体重244gの超未熟児で生まれ、1歳3カ月で歩くようになった時も体は小さめ。10ヶ月の足に合う靴が見つからず、詰め物を入れて履かせていた。

その後、片岡さんはHP制作会社「プレビジョン」を起業。その傍ら、育児日記を読み返したのを機に「同じ気持ちの母親たちのために、私が作ろう」と07年に一念発起。製造ノウハウや靴メーカーを調べる中で、医療靴メーカー「バイタルフス高知」(同市高須新町3丁目)に製造を委託することになった。

市販されている外出用の靴は、11・5センチ以上がほとんど。片岡さんは5人以上の赤ちゃんの足のデータを取って、10〜12センチのオリジナルの木型を作った。

F1をモチーフにした「モータースポーツ」などユニークなデザインを考案。軽くて柔らかい牛革を使い、面ファスナーで脱着しやすく工夫。バイタルフスの技術者が一足ずつ手作りし、今春から販売を始めた。

価格は、1万2600円から。HP(

<http://www.chochi-chochi.com>)のほか、「えほんの店」コック・サン(同市新屋敷2丁目)でも展示販売している。5日まで県立ふくし交流プラザ(同市朝倉戊)で開催中の「バリアフリーフェスティバル2011」でも展示されている。



片岡百合さんが自らデザインした「チヨーチ・チヨーチ」の10〜12センチのベビー靴(高知市介良乙)